

2008年11月26日

リチウムイオン二次電池用セパレータを共同開発
三菱樹脂が量産設備を設置し、2009年夏より生産開始

三菱樹脂株式会社
三菱化学株式会社

三菱樹脂株式会社(本社:東京都中央区 社長:吉田 宏、以下「三菱樹脂」と三菱化学株式会社(本社:東京都港区 社長:小林 喜光、以下「三菱化学」)は、近年大幅に需要が拡大しているリチウムイオン二次電池用のセパレータを共同開発いたしました。

三菱樹脂は、エレクトロニクス分野や新エネルギー分野の部材開発を積極的に進めており、リチウムイオン二次電池用セパレータについては2003年から開発に着手、2006年からは同じくリチウムイオン二次電池用部材(電解液、正極材、負極材)の製造・販売を手がける三菱化学との共同開発に取り組んでまいりました。

既に、三菱樹脂は、長浜工場(滋賀県長浜市)内にセパレータ量産化検討設備を設置して試作品の提供を開始しております。今般、量産化に向けてさらに10億円を投資して生産能力を1200万m²/年とし、2009年夏からの生産開始、2009年度中の本格採用を目指してまいります。

生産を開始するセパレータは、三菱樹脂が長年培って蓄積してきた材料設計技術とフィルム製膜技術等を駆使して開発したもので、従来の湿式法と乾式法の課題を改善し、孔の高次構造をコントロールした膜になっており、低温出力、サイクル寿命等の諸電池特性と機械的強度とのバランスの良さが特長です。あわせて、電池の安全性に係わる耐熱性をより高めたセパレータも今後ラインナップする計画です。

一方、三菱化学は、本開発において電池性能評価、市場開発を担当し、既に事業化されている他のリチウムイオン二次電池用部材(電解液、正極材、負極材)に加え、今般セパレータの販売を開始いたします。

両社は、セパレータの開発・製造・販売において引き続き連携を深めながら、携帯電話、ノート型パーソナルコンピュータをはじめとする携帯用小型電子機器や電動工具等民生用向け用途のみならず、将来需要増が見込まれるハイブリット自動車(HEV)用リチウムイオン二次電池用部材の開発も推進していき、三菱ケミカルホールディングスグループのリチウムイオン二次電池事業の拡大に向けて積極的に取り組んでまいります。

<本件に関する報道関係のお問合せ先>

三菱樹脂株式会社 総務部広報室 TEL:03-3279-3800
三菱化学株式会社 広報・IR室 TEL:03-6414-3730